

## 情報活用能力の育成

### I 研究の内容

情報化社会が急速に進む(最近はWIFIなどの無線通信へ変化)中,学校教育においては,子どもたちに情報活用能力を育成することが急務とされている。同時に児童への指導のためには教員の指導力の向上も求められている。本部会では上記テーマを設定し,児童の情報活用能力の育成と指導力向上を目指し研究を進めた。

#### 情報活用能力のとらえ方

- ①情報活用の実践力
- ②情報の科学的な理解
- ③情報社会に参画する態度

#### 1 研究の方法

- (1) 部会のテーマ「情報活用能力を高める研究」に沿った授業実践について研究し,研究協議を行う。
- (2) 情報機器使用に関する児童の実態調査アンケートを実施し,子どもたちの実態を把握して情報モラル教育に役立てる。
- (3) 各学年1~2時間の内容で3・4・5・6年の情報モラルカリキュラムを充実する。
- (4) 部会員の情報活用能力を高めるための研修を行う。

#### 2 研究の具体的内容

##### (1) 授業研究と検証

- ① 8月31日 第5学年 総合的な学習の時間「情報モラル【個人情報】」  
授業者 野尻 政彦 教諭(三富小学校)

##### ア) 情報教育における目標

- ・個人情報の重要性について知り,その取り扱いは慎重に行わなければならないことを知る。

##### イ) 内容

まず,インターネットにある懸賞応募のホームページを見て,それに必要事項を記入して送信する。次に,懸賞応募による抽選が行われ,抽選結果により変な賞品が当たり,それらの商品の違いについて知る。そして,変な賞品が来た理由について考え,個人情報の危険性について理解を深める。

子どもたちの欲しい物のアンケートの情報をもとに,教材が工夫されていたので,子どもが興味を持ち学習を進めることができた。懸賞の募応募方法では,応募用紙に書かせることで,子ども同士が見合っ確認しながら取り組むなど,子どもの実態に合った指導だった。また,変な賞品が来たところで,懸賞応募のホームページが変であることに徐々に気付き,個人情報の大切さを理解していた。

家庭や学校外の場で個人情報を扱う機会がある。家庭との連携を取りながら情報モラルを進めていくことが必要であると感じた。

## (2) 情報モラルアンケート

### 1. アンケートの目的

本部会では情報モラルについて下記に基づきアンケートを実施する。

a) 情報に関して現在の子どもの実態を把握する。

b) 授業前後に実施し、児童の変容を見とる。

c) アンケート実施により子どもたちの情報モラルを高める。

### 2. 実施対象 各校3～6年 計65名

### 3. アンケート内容

・パソコンの有無や使用に関する内容，携帯電話の有無や使用に関する内容

・情報モラルに関連する用語について

### 4. 実施時期 6月～7月

### 5. 集計について ・各校集計 ・全体集計

### 5. 集計結果について(主なもの)

・家庭のパソコンでインターネットを利用する上で，家庭でのルールがあると回答したのは約1/3だった。児童だけでなく，保護者の情報機器の取り扱いに対する理解が必要である。

・携帯電話を低学年から使用している子どももいる。携帯電話の安全な使い方を教える時期を早期にしていく必要があるかもしれない。

・「個人情報」や「迷惑メール」に対する認知度が比較的高かった。「チェーンメール」や「著作権」は低くモラル教育の必要性を感じる。

## (3) 情報モラルカリキュラムの充実

・学習カードの作成・・・子どもたちの学習理解を助けるためのもの

・板書計画の作成・・・授業者が授業の構想や流れを理解しやすいもの

・関連資料の収集・・・授業に関係あるHP，関連資料(道徳との関連など)の収集

## (4) 情報活用能力を高める研修を行う。

・活用方法の紹介，活用できるソフトの紹介

・成績処理，バックアップ，賞状ソフト，PDF加工ソフト，暗号化USB

・パソコン室の利用法の紹介，インターネットの使用方法

## II 成果と課題

### 1 成果

・研究テーマに沿って，授業研究や児童の実態把握などの取り組みを行い，それぞれの領域で成果をあげることができた。

・情報モラルに関する授業実践により，児童の実態，学習課題や資料の提示，学習展開の方法など多くの研究成果が得られた。

### 2 課題

・情報モラルの小中の連携が必要である。中学でどのような指導をしているか把握する必要がある。

## III 研究の成果物

・小学校3～6年の情報モラルカリキュラムの授業案，板書計画，学習カード  
(部長 滝島 正彦)